工業数学F2 #11 離散フーリエ変換を高速化する

京都大学 加納 学

京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻

Human Systems Lab., Dept. of Systems Science Graduate School of Informatics, Kyoto University APAI

前回の宿題

- 1. 次の参考資料を読んで理解する.
 - 金谷健一, これなら分かる応用数学教室, 共立出版, 2003 「第4章 離散フーリエ解析」
 - 高速フーリエ変換や離散コサイン変換も理解すること.
 - 参考資料と講義スライドでは、離散フーリエ変換の定義 (1/N をどちらの式に書くか)に加えて、いくつかの記号が 異なるので注意すること.
- 2. 「高速フーリエ変換」の概要をレポートにまとめて提出する.
 - A4紙2頁以内にまとめること.



復習:離散フーリエ変換

3

周期 2π の周期関数 f(x) について、 1周期を N 分割したサンプル点 x_n でのサンプル値を f_n とする.

$$f_n = f(x_n) = \frac{1}{N} \sum_{k=0}^{N-1} F_k e^{i2\pi kn/N}$$

離散フーリエ変換
$$F_k = \sum_{n=0}^{N-1} f_n e^{-i2\pi kn/N}$$

$$x_n = \frac{2\pi n}{N}$$
 $(n = 0, 1, 2, \dots, N-1)$

Outline

- 1の原始N乗根
- 高速フーリエ変換
- 宿題

1の原始 N乗根

5

1の原始N乗根(N乗して初めて1になる数)

$$w_N = e^{i2\pi/N}$$

$$w_N^N = 1$$

$$w_N^k \neq 1 \quad (k = 1, 2, \cdots, N-1)$$

オイラーの公式

$$e^{ix} = \cos x + i\sin x$$



レオンハルト・オイラー(Leonhard Euler) (1707-1783)

1の原始 N乗根

6

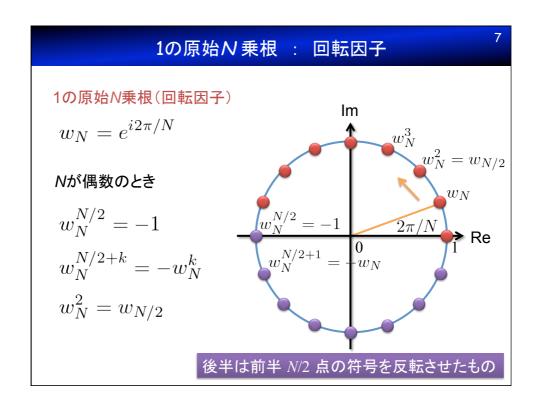
1の原始N乗根 $w_N=e^{i2\pi/N}$

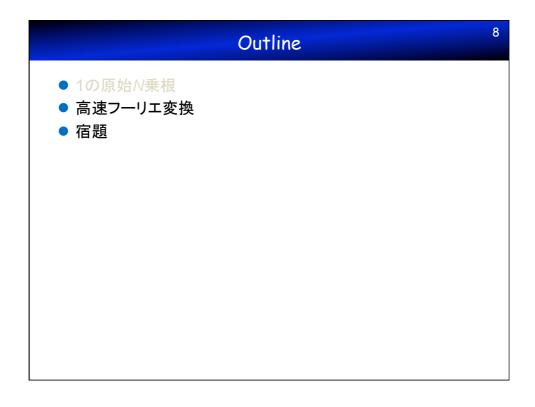
Nが偶数のとき

$$w_N^{N/2} = (e^{i2\pi/N})^{N/2} = e^{i\pi} = -1$$

$$w_N^{N/2+k} = -w_N^k$$

$$w_N^2 = (e^{i2\pi/N})^2 = e^{i2\pi/(N/2)} = w_{N/2}$$





高速フーリエ変換

9

- 高速フーリエ変換(Fast Fourier Transform; FFT)
 - 離散フーリエ変換を高速化するアルゴリズム.
 - 1805年頃, カール・ガウス(Johann Carl Friedrich Gauss, 1777-1855)によってアルゴリズムが開発された が, この業績は広く知られなかった。
 - 1965年に、ジェイムズ・クーリー(James W. Cooley)と ジョン・テューキー(John W. Tukey)が独自に導出したア ルゴリズムと計算機への実装方法を発表したことにより、 FFTは脚光を浴びた。
 - Cooley-Tukey型アルゴリズムの他にも、 複数のアルゴリズムがある.

カール・ガウス(Johann Carl Friedrich Gauss) (1777-1855)



離散フーリエ変換の行列表現

離散フーリエ変換
$$F_k = \sum_{n=0}^{N-1} f_n e^{-i2\pi kn/N}$$

$$= \sum_{n=0}^{N-1} f_n w_N^{-kn}$$

$$\begin{bmatrix} F_0 \\ F_1 \\ F_2 \\ \vdots \\ F_{N-1} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & w_N^{-1} & w_N^{-2} & \cdots & w_N^{-(N-1)} \\ 1 & w_N^{-2} & w_N^{-4} & \cdots & w_N^{-2(N-1)} \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & w_N^{-(N-1)} & w_N^{-2(N-1)} & \cdots & w_N^{-(N-1)^2} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} f_0 \\ f_1 \\ f_2 \\ \vdots \\ f_{N-1} \end{bmatrix}$$

バタフライの導出
$$F_k = \sum_{n=0}^{N-1} f_n w_N^{-kn}$$

$$= \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_N^{-k(2m)} + \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_N^{-k(2m+1)}$$

$$= \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_N^{-k(2m)} + w_N^{-k} \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_N^{-k(2m)}$$

$$= \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_{N/2}^{-km} + w_N^{-k} \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_{N/2}^{-km}$$

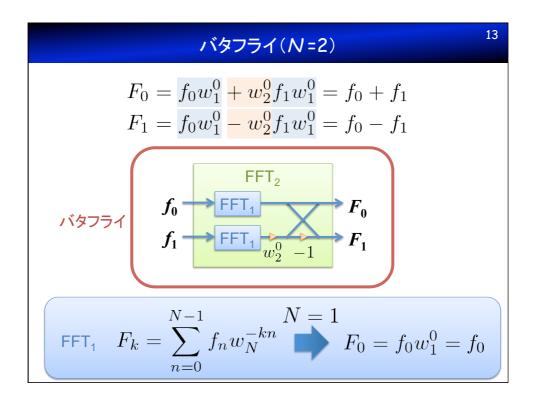
バタフライの導出
$$F_k = \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_{N/2}^{-km} + w_N^{-k} \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_{N/2}^{-km}$$

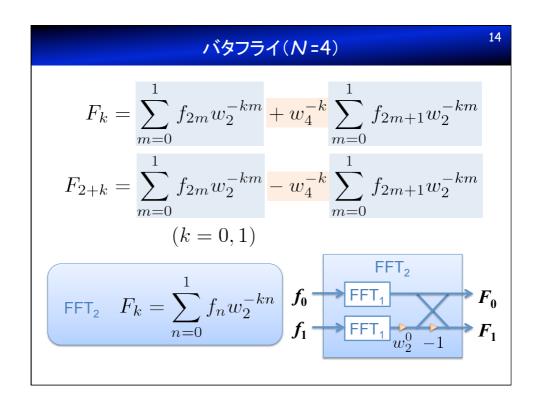
$$w_N^{N/2+k} = -w_N^k$$

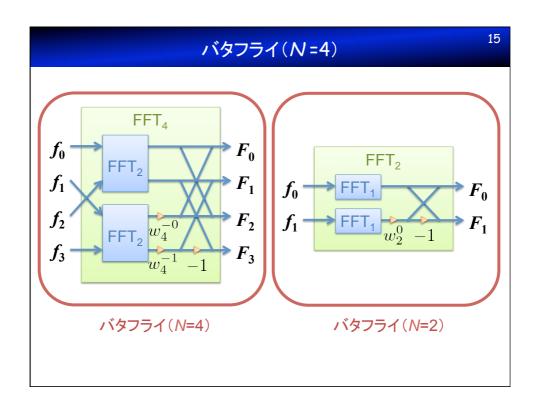
$$F_k = \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_{N/2}^{-km} + w_N^{-k} \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_{N/2}^{-km}$$

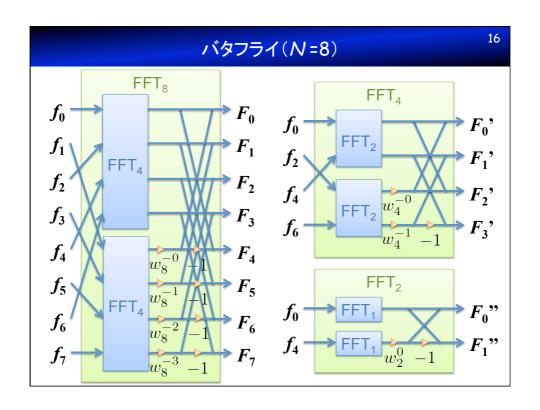
$$F_{N/2+k} = \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m} w_{N/2}^{-km} - w_N^{-k} \sum_{m=0}^{N/2-1} f_{2m+1} w_{N/2}^{-km}$$

$$(k = 0, 1, 2, \cdots, N/2 - 1)$$
 計算量半減









Outline

17

- 1の原始N乗根
- 高速フーリエ変換
- 宿題

宿題

- 1. 「高速フーリエ変換(FFT)」の応用例を1つ選択し、 レポートにまとめて提出する.
 - A4紙2頁以内にまとめること.
 - ■応用例の概要(その技術の目的や装置構成など)を分かり易く述べること。
 - 応用例において、どのようにFFTが活用されているかを明確に述べること。

